

下水道事業



日本下水道協会キャラクター「スイスイ」

下水道事業は約1億7万円の純利益

下水道事業は、公共下水道と農業集落排水の2つの事業を実施しており、水道事業同様、公営企業として「独立採算制」を基本に事業を運営しています。

令和4年度の下水道事業会計決算についてお知らせします。

下水道の水質検査

水道事業



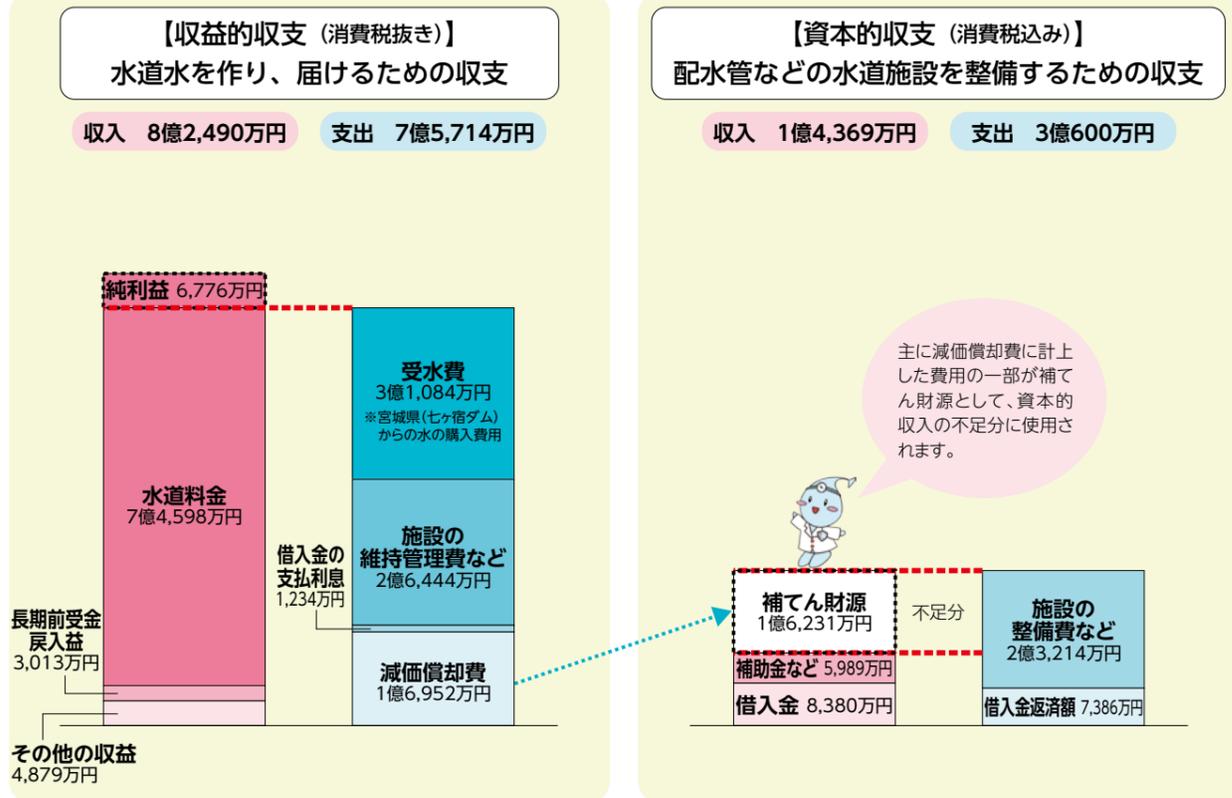
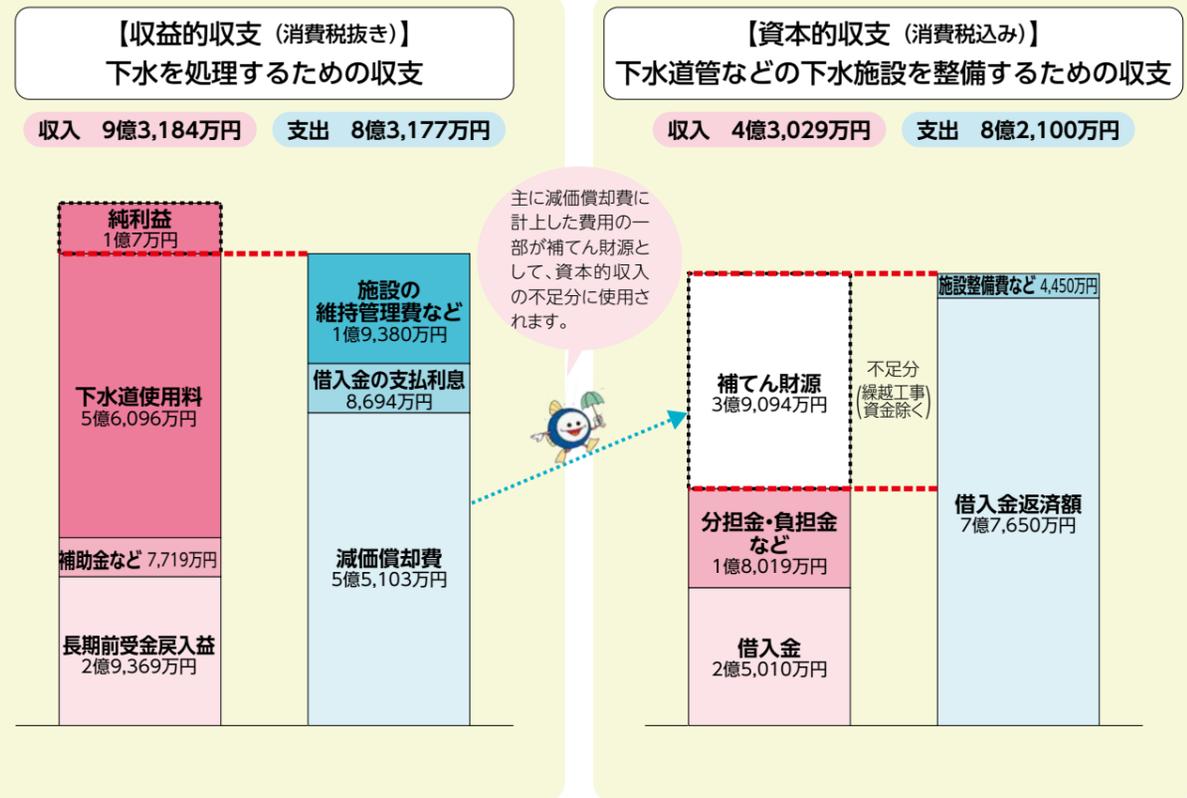
日本水道協会キャラクター「Dr. すいどー」

水道事業は約6,776万円の純利益

水道事業は、公営企業として「地方公営企業法」に基づき、水道料金を主な財源とし「独立採算制」を基本に事業を運営しています。公営企業の収支は、一般会計とは違い、「収益的収支」と「資本的収支」という区分で経理を行っています。

令和4年度の水道事業会計決算についてお知らせします。

応急給水訓練



【下水道事業の業務概要】

項目	説明	令和4年度	令和3年度	前年度比
処理区域内人口	下水道が整備されている区域内の人口	23,263人	23,625人	△ 362人
水洗化人口	下水道管に接続している人口	20,961人	21,197人	△ 236人
年間総処理水量	家庭などから流された年間汚水量	2,753,580m ³	2,774,950m ³	△ 21,370m ³
年間有収水量	総処理水量のうち使用料の対象となった汚水量	2,549,316m ³	2,594,983m ³	△ 45,667m ³

下水道事業会計決算の概要

収益的収支については、収支差し引きで1億7万円の純利益を計上しました。この利益は、累積している欠損金の解消に充てられます。また、資本的支出について、下水道の整備のために借り入れた借入金の返済額が年間7億円を超えており、経営を圧迫している要因となっています。

資本的収支の支出に対して収入が不足する額については、補てん財源で賄っています。

令和4年度に実施した主な事業

令和4年度は、東町三丁目地区の都市計画道路工事に伴う下水道管移設工事に着手したほか、3カ所の公共ます設置工事、16カ所のマンホールポンプ監視通報装置更新工事を実施しました。また、令和4年度分のマンホール蓋更新工事が完成したことにより、一連のマンホール蓋更新計画が完了となりました。

今後も「白石市下水道ビジョン」に基づき事業を行い、安全で快適な生活環境の構築に貢献できる下水道を目指します。



▲更新後のマンホール蓋

【水道事業の業務概要】

項目	説明	令和4年度	令和3年度	前年度比
給水人口	水道により給水を受けている人口	30,570人	31,094人	△ 524人
給水戸数	水道により給水を受けている戸数	13,597戸	13,622戸	△ 25戸
年間総配水量	配水池などから配水された年間水量	3,714,293m ³	3,730,657m ³	△ 16,364m ³
年間有収水量	総配水量のうち料金の対象となった水量	2,878,050m ³	2,904,086m ³	△ 26,036m ³

水道事業会計決算の概要

収益的収支については、収支差し引きで6,776万円の純利益を計上しました。この利益は、今後老朽化した水道施設の更新などに使用する予定です。

また、資本的収支の支出に対し収入が不足する額については、補てん財源で賄っています。

令和4年度に実施した主な事業

令和4年度は、繰り越し事業である中町地区、長町地区の老朽管更新工事のほか、南町一丁目地区の配水管を耐震性の高い水道管に更新する工事および松ヶ丘地区の老朽管更新工事を実施し、東町三丁目地区の都市計画道路工事に伴う配水管移設工事に着手しました。

また、大石原配水池の流量計および三住ポンプ場の送水ポンプの更新工事を実施し、水道施設の強化を図ります。

今後も「白石市水道ビジョン」に基づき事業を行い、安全で快適な生活環境の構築に貢献できる水道を目指します。



▲松ヶ丘地区の老朽管更新工事